

サケ産卵床 豊平川の3倍

自老・ウヨロ川

胆振支庁白老町のウヨロ川に遡上するサケの数が、道央圏では突出して多いことが地元のNPO法人「ウヨロ環境トラスト」の調査でわかった。この調査の報告会が、20日午後3時から同町東町の総合保健福祉センター「いきいき4・6」で開かれる。入場無料。

調査は日本財団や町の補助を得て、昨年12月に行った。川の中流部の約3キロの区間を、4人ほどで6日間、つぶさに観察してサケの産卵床を数えたところ、合計で1879カ所見つかった。

同トラストでは「ウヨロ川よりも3倍ほど長い札幌市の豊平川の報告が685カ所だから、ウヨロ川の多

NPO調査で1879カ所

「自然の豊かさ知って」20日報告会

さは突出している」としている。理由としては自然環境が保たれていることをあげている。

報告会では調査した自然ウオッチングセンター代表の島田明英さんが「ウヨロ川のサケ自然産卵の状況とホッチャレを利用する動物たち」と題して発表。また札幌市豊平川さけ科学館の岡本康寿館長が、野生サケ保全の意義や保全への提案などについて話す。調査結果などをまとめた報告書も無料で配られる。

同トラスト事務局では「多くの人にウヨロ川の自然の豊かさを認識してもらい、この環境を長く残していきたい」と話している。

問い合わせは事務局の河野さん(0144・85・2852)へ。